

彙 報

会 長 定 延 利 之

——常任委員会——

日本語学会 2025 年度第 1 回常任委員会

日 時：2025 年 6 月 14 日（土）10:30～12:00、
及びメール審議

場 所：オンライン

出席者：定延利之（会長）、青木博史、上山
あゆみ、小林正人、滝浦真人、千田俊太
郎、中山俊秀、広瀬友紀、堀江 薫、松
浦年男、宮本陽一（以上、常任委員）、
南本 徹（事務局局長）

オブザーバー：加藤重広（編集委員長）、小
町将之（大会運営委員長）、杉崎鉦司（広
報委員長）、木山幸子（夏期講座委員長）、小野
創（倫理委員長）、鄭 雅云、脇坂美和
子（事務局委員）（メール審議の参加を
含む）

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員が資料によって確認さ
れた。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第 171 回大会（2025 年度秋季大会）：
2025 年 11 月 22 日～23 日、岡山大学
 - 第 172 回大会（2026 年度春季大会）：日
程未定、桜美林大学
 - 第 173 回大会（2026 年度秋季大会）：日
程未定、長崎大学
 - 第 174 回大会（2027 年度秋季大会）：日
程未定、日本女子大学
 - 第 175 回大会（2028 年度春季大会）：日
程未定、広島大学
- (3) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (4) 事務局からの報告
 1. 科研費の申請（国際情報発信強化）が

不採択になったことが報告された。

2. 2025 年度多様性プロジェクトについて、
応募がなかったことが報告された。
3. 税理士事務所からの決算料増額の申し
入れについて承諾したことが報告された。
4. 法人化していない現状のデメリットと、
法人化するための手続きについて、税理
士と司法書士から得られた情報が報告さ
れた。
5. 延期されていた選挙管理委員の選挙を
評議員会で行うことが報告された。
6. ロゴマークの募集について進捗状況が
報告され、大会当日に会員の投票に付さ
れることが報告された。
7. 国際情報発信強化小委員会は閉じたが
各委員には残された科研の課題のため任
期を越えて活動を続けていただけると
報告された。
8. GEAHSS（人文社会科学系学協会男女
共同参画推進連絡会）のアンケート結果
が報告された。
9. 情報保障については、改正障害者差別
解消法の「合理的配慮」の趣旨と、それ
を踏まえた前執行部の方針に基づき、文
字翻訳を基本としつつも、申請者の実状
に応じて、可能な範囲で柔軟に対応する
ことを確認した。

[審議事項]

- (1) 2024 年度決算書について
 - ・2024 年度決算書について審議を行い、
これを承認した。
- (2) 大会参加費の値上げについて
 - ・大会参加費について、一般会員、非会員
はそれぞれ千円ずつの値上げを行い、学
生については会員、非会員とも据え置く
ことを評議員会に提案することについて
審議を行いこれを了承した。
- (3) 大会運営委員会の業務一部外部委託に
ついて
 - ・大会運営委員会の業務について、業務過
多により一部外部委託をする提案が行わ
れこれを了承した。
- (4) 2025 年度予算案について

- ・2025年度予算案について審議を行い、これを承認した。
- (5) 言語系学会連合と日本学術会議に関連した催しについて
- ・2026年度に本学会が言語系学会連合の委員長として言語系学会連合のシンポジウムを主導するに当たり、このシンポジウムを、本学会が昨年度より実施している言語権セミナーの総括的なものと位置付けることについて審議を行い、これを了承した。
- ・日本学術会議が2026年度、言語的少数者との共生についてのシンポジウムを開催するために、本学会に協力を要請してきた場合、共催としてこれを支援することについて審議を行い、これを了承した。
- ・これらの催しが双方行われる場合、同時期に連続して開催することについて審議を行い、これを了承した。

——評議員会——

日本語学会 2025年度第1回評議員会

日時：2025年6月28日（土）10:30～12:00、
及びメール審議

場所：明海大学浦安キャンパス

出席者：定延利之（会長）、青木博史、青柳 宏、赤楚治之、伊藤さとみ、上山あゆみ、内堀朝子、江口 正、大島 David 義和、大津由紀雄、奥 聡、尾谷昌則、小野 創、風間伸次郎、梶 茂樹、加藤重広、北原真冬、木部暢子、桐生和幸、窪菌晴夫、窪田悠介、小泉政利、小西いずみ、小林正人、斎藤 衛、佐々木冠、白井聡子、沈 力、杉崎鉦司、滝浦真人、田窪行則、田中真一、千田俊太郎、塚本秀樹、中谷健太郎、那須川訓也、成田広樹、野田尚史、林 徹、林 範彦、藤代 節、堀 博文、堀江 薫、松浦年男、松本 曜、三宅知宏、宮本陽一、由本陽子、吉田和彦、米田信子（以上、評議員49名）

委任状：15名

オブザーバー：上野善道（顧問）、有田節子、石井 透（以上、会計監査委員）、小町

将之（大会運営委員長、メール審議）、甲斐ますみ（大会運営委員長代理）鄭雅云、脇坂美和子（以上、事務局委員）

議事に先立ち、4月19日に逝去された松本克己先生に哀悼の意を表し黙祷が行われた。

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第171回大会（2025年度秋季大会）：2025年11月22日～23日、岡山大学
 - 第172回大会（2026年度春季大会）：日程未定、桜美林大学
 - 第173回大会（2026年度秋季大会）：日程未定、長崎大学
 - 第174回大会（2027年度秋季大会）：日程未定、日本女子大学
 - 第175回大会（2028年度春季大会）：日程未定、広島大学
- (3) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (4) 事務局からの報告
 1. 科研費の申請（国際情報発信強化）が不採択になったことが報告された。
 2. 日本学術会議の法人化を内容とする関連法案について、日本学術会議に賛同する声明を4月28日に発出したことが報告された。
 3. ログマークの募集について進捗状況として今大会で会員の投票により決定することが報告された。
 4. 法人化していない現状のデメリットと、法人化するための手続きについて、税理士と司法書士から得られた情報が報告された。
 5. 国際情報発信強化小委員会は閉じたが各委員には残された科研の課題のため任期を越えて活動を続けていただけることが報告された。

(5) 国際言語学会議についての報告

ポーランドで行われた国際言語学会議について梶茂樹顧問（同会理事）より参加報告が行われた。

[審議事項]

(1) 選挙管理委員の選挙について

・選挙規則に基づき投票した結果、下記の4名が選挙管理委員として選出された。伊藤さとみ（お茶の水女子大）、上山あゆみ（九州大）、原田なをみ（東京都立大）、広瀬友紀（東京大）

なお辞退者が出た場合には、奥 聡（北海道大）、白井聡子（東京大）、内堀朝子（東京大）の三氏をこの順で選挙管理委員とすることが決定された。

(2) 2024年度決算書について

・2024年度決算書について審議を行い、これを承認した。

(3) 大会参加費の値上げについて

・大会参加費について、一般会員、非会員はそれぞれ千円ずつの値上げを行い、学生については会員、非会員とも据え置く提案が行われた。審議により、会費の値上げ等の抜本的な解決策を求めること、常勤職にない会員への配慮等について異論が提起され、次回評議員会に提出する予定として取り下げられた。

(4) 大会運営委員会の業務一部外部委託について

・大会運営委員会の業務について、業務過多により一部外部委託をする提案が行われこれを了承した。

(5) 2025年度予算案について

・2025年度予算案について審議を行い、これを承認した。

(6) 言語系学会連合と日本学術会議に関連した催しについて

・2026年度に本学会が言語系学会連合の委員長として言語系学会連合のシンポジウムを主導するに当たり、このシンポジウムを、本学会が昨年度より実施している言語権セミナーの総括的なものと位置付けることについて審議を行い、これを

了承した。

- ・日本学術会議が2026年度、言語的少数者との共生についてのシンポジウムを開催するために、本学会に協力を要請してきた場合、共催としてこれを支援することについて審議を行い、これを了承した。
- ・日本学術会議のシンポジウムを支援する場合、言語系学会連合のシンポジウムと連続して開催することについて審議を行い、継続して検討することとした。

—編集委員会—

1. 2024年投稿状況

昨年の投稿状況は、新規投稿26件、修正投稿と合わせると49件で、全体の採択率は40.7%であった。過去4年間の年間投稿数（新規）は28.75本で、若干の増減はあるが、20本～35本に収まっている。

	全体*	一般論文	特集論文	フォーラム	書評論文	書評・紹介
新規投稿数	26	15	6	2	1	1
修正投稿数	23	13	8	2	0	0
審査終了数	27	16	7	2	1	1
採択(A)数	11	5	5	1	0	0
採択率(%)	40.7	31.3	71.4	50.0	0.0	0.0
不採択(D)数	16	11	2	1	1	1
不採択率(%)	59.3	68.8	28.6	50.0	100.0	100.0

*「全体」にはカテゴリ不明1件（査読前取り下げ後「一般論文」として再投稿。計2件としてカウント）を含む。

2. 167号（2025年1月刊行済）掲載論文等

167号は1月末に刊行され、2月初旬にはウェブサイトでも公開されている。167号は会長講演と国際言語学者報告のほか、一般論文4編を掲載しており、4編中3編が日本語論文で、英文論文率は25%である。

投稿日	最終受理日	種類	タイトル	著者
2023/5/8	2024/7/22	一般論文	トルコ語における名詞の重複と複数行為性	鈴木唯
2023/5/30	2024/7/24	一般論文	飯塚市方言におけるモダリティを表す『トル』	小川晋史
2023/10/1	2024/10/10	一般論文	日本手話の空間に表される否定の概念メタファー—身体性に根ざした「理解」の記号ネットワーク—	高嶋由布子・有光奈美
2023/10/24	2024/10/16	一般論文	MaxElide Effects in Mandarin Chinese	Qinyi Tan, Daiko Takahashi
2024/10/21	2024/10/21	会長講演	より豊かな言語学をめざして	定延利之
2024/9/20	2024/9/20	報告	第21回国際言語学者会議報告	梶 茂樹

3. 168号 (2025年7月末刊行予定) 掲載論文等

168号は先日までに掲載論文・記事の入稿は済んでおり、現在一部の論文では再校の校正まで進んでいる。7月末刊行の予定で作業を進めており、8月にずれ込む可能性はあるが、大きく遅れることなく、刊行できると考えている。168号は、特集論文5編 (うち一般投稿1編、巻頭4編)、一般論文2編 (うち研究論文1編、フォーラム1編) の7編と故松本克己会長の追悼記事を掲載する予定で、論文7編のうち、6編が英文論文で、英文論文率は85.7%になる。

種別	受領日	最終原稿受理日	種類	著者	タイトル
特集	2024/7/10	2024/12/25	論文	Hiroyuki Suzuki	Initial /r/ and rhoticity in Tibetan languages: Analysis of syllable structure

特集 (巻頭)	2024/9/10	2025/1/21	論文	Hiroto Uchihara, Gutiérrez Ambrocio	Rising tone in Teotitlán Zapotec
特集 (巻頭)	2024/9/23	2025/1/31	論文	Seunghun J. Lee, Daisuke Shinagawa	Phonetics of voiceless laterals in five Southern Bantu languages
特集 (巻頭)	2024/9/20	2025/3/2	論文	山岡 翔	パテン語ベトナム変種の頭子音体系に関する試論—硬口蓋性唇音とslack voiceに着目して—
特集 (巻頭)	2024/9/10	2025/3/19	論文	Watabe Naoya	Vowel alternations in Ukrainian: From the perspectives of phonological universality
一般	2024/5/26	2025/4/17	論文	Lee Jinho	Phonological typology of velar nasals
一般	2024/2/5	2024/12/20	フォーラム	Koyo Akuzawa, Yusuke Kubota	On recent debates on the Tense Alternation Generalization: A reply to Fujii et al. (2023)
追悼記事	吉田和彦・新田哲夫・山本秀樹	故松本克己元会長の逝去についての追悼記事3件と松本先生略歴・主要著書			

4. エディトリアル・マネージャ (EM) の利用規約の改定対応

JSTから、投稿・査読システムのエディトリアル・マネージャ (EM) の継続使用について、①インパクトファクター誌になっていること、②年間40件以上の投稿¹があること、の2つの条件を満たさなければ、ベーシック仕様の投稿システムに移行させる新運用案を定めたと通知があった。ベーシック仕様では現在の投稿査読システムよ

¹ EMでは投稿論文に自動的に番号が振られるが、修正投稿はR1, R2と付されるだけで新しい整理番号は振られない。修正投稿を含めると毎年40件以上の投稿があるが、新規投稿だけでは40件を超えない (2021年度33本, 2022年度21本, 2023年度35本, 2024年度26本) 状況が続いている。

りも、機能が減ることになる。現時点での予定は以下の通りと通告があった。

2027年9月末 ベーシック仕様稼働開始
2027年10月 新運用案に移行
2028年12月末 移行猶予期間終了（条件を満たさなければこれ以降EMは使用不可）

現編集委員会の任期は2026年度末(2027年3月)までなので、移行に実質的に対応するのは、次期の委員会でのことになる。具体的には、次期委員会開始後、6ヶ月後にベーシック仕様に移行になるが、1年3ヶ月の猶予期間があり、最大限1年9ヶ月は現状のまま使えることになる。投稿数増加のために相談をしているが、劇的に増やせる有効な方策はあまりない。現在は、次期に引き継ぐべきことをまとめるほか、次期編集委員長と編集委員が決まった段階で、事前に協議すべきことがないか検討している段階である。

5. 172号特集論文募集の準備

現在募集中の170号の特集論文(2025年8月末投稿締切、その後査読、掲載号は2026年7月刊行予定)に続く、次の特集のテーマの準備をしている。最近特集で取り上げられることが多くなかった理論言語学的なテーマとすることにして、担当委員を藤井友比呂委員と西山國雄委員に依頼した。2025年8月中旬に募集開始をし、2026年8月末投稿締切、2027年7月末特集号刊行の予定で動いている。なお、174号の特集号の募集までが今期の委員会の担当である。

号	特集タイトル	募集開始	投稿締切	刊行
174	(未定)	2026年8月	2027年8月末	2028年7月

172	(準備中)	2025年8月	2026年8月末	2027年7月
-----	-------	---------	----------	---------

170	通言語的に見た文法カテゴリと言語単位	2024年8月	2025年8月末	2026年7月
-----	--------------------	---------	----------	---------

168	世界の言語音の多様性	2023年8月	2024年8月末	2025年7月
-----	------------	---------	----------	---------

166	認知言語学の現在地と今後の展望	2022年9月	2023年8月末	2024年7月
-----	-----------------	---------	----------	---------

164	文字と音韻論	2022年4月	2022年12月末	2023年9月
-----	--------	---------	-----------	---------

162	類別詞の多様性	2021年4月	2021年12月末	2022年9月
-----	---------	---------	-----------	---------

160	文法と情報構造	2020年4月	2020年12月末	2021年9月
-----	---------	---------	-----------	---------

158	日本語方言の形態音韻論	2019年4月	2019年12月末	2020年9月
-----	-------------	---------	-----------	---------

156	言語対照の現在	2018年4月	2018年12月末	2019年9月
-----	---------	---------	-----------	---------

154	焦点および焦点関連の現象をめぐって	2017年4月	2017年12月末	2018年9月
-----	-------------------	---------	-----------	---------

152	生成文法～移動現象をめぐって～	2016年4月	2016年12月末	2017年9月
-----	-----------------	---------	-----------	---------

150	日本語アクセント記述研究の新展開	2015年4月	2015年12月末	2016年9月
-----	------------------	---------	-----------	---------

6. その他

言語学会として、J STAGE Dataの利用を正式に申し込み、2025年2月より使用可能になっている。これは、論文と関連する諸データ(数値の表データ、音声・画像・動画など)をアップロードして公開できるもので、費用は無料である。『言語研究』に論文等が掲載された方にその権利があるので、168号掲載論文の著者には別途案内する。それ以前の寄稿者むけの案内は今夏のうちにホームページに掲載する予定である。

以上

——大会運営委員会——

2024年度第3回大会運営委員会

日時：2025年2月23日(日) 10:00～11:30

場所：オンライン

出席者：小町将之(委員長), 甲斐ますみ, 田川拓海, 吉田健二, 小野智香子, 久保菌愛, 北田伸一, 浅尾仁彦, 矢野雅貴, 李林静, 平山真奈美, 中野陽子

[審議事項]

1. 前回(第169回)大会のアンケートについて意見交換した。
2. 次回(第170回)大会の開催要項を確認した。

2025年度第1回大会運営委員会

日時：2025年4月1日(火) 11:00～12:30

場所：オンライン

出席者：甲斐ますみ, 小町将之, 田川拓海, 吉田健二, 小野智香子, 久保菌愛, 北田伸一, 浅尾仁彦, 矢野雅貴, 李林静

[審議事項]

1. 第170回大会運営の業務分担について確認
2. 第170回大会の採否について審議した。
応募要旨の審査結果に基づき, 口頭発表37件, ポスター発表23件の計60件(うち採択決定後の辞退1件, 研究発表全体で応募90件), ワークショップ3件(応募3件)を採択することとした。

2025年度第2回大会運営委員会

日時：2025年6月3日(火) 11:30～13:00

場所：オンライン

出席者：甲斐ますみ, 小町将之, 田川拓海, 吉田健二, 北田伸一, 矢野雅貴, 平山真奈美, 浅尾仁彦, 小野智香子

[審議事項]

1. 次期委員長を久保菌愛氏とすることを承認し, 会長に諮ることとした。

2. 大会要旨集の作成手順について, 応募時の要旨をそのまま原稿として使用するよう段取りを見直し, 関連規則の修正を評議員会に諮ることとした。
3. シンポジウム登壇者・大会実行委員(開催校委員), 開催校現地アルバイト学生については大会参加費を徴収しないことを確認し, 以後の大会運営に引き継ぐこととした。

——広報委員会——

- (1) 日本言語学会のホームページに, 日本学術会議の決議「日本学術会議法案の修正について」ならびに声明「次世代について~政府による日本学術会議の継承と発展に向けて」を日本言語学会として支持する声明を掲載した。
 - (2) 以下の動画を日本言語学会のYouTubeにアップロード・公開した。
日本言語学会・国際情報発信強化ワークショップ(第5回)
“Writing for Publication: Academic Writing as an Intellectual Conversation”
2024年12月21日開催
講師：Andries W. Coetzee (Professor, University of Michigan)
 - (3) 第170回大会の「採択決定済み発表題目リスト」「大会プログラム」「要旨集」などを随時ホームページに掲載した。
 - (4) その他, 掲載依頼のあった学会関連情報(公募情報・研究会情報など)を随時ホームページに掲載した。
 - (5) リニューアルされたホームページの不具合(リンク切れなど)を随時修正した。
- 以上

——学会賞選考委員会——

2024年度第1回(大会発表賞)

日時：2024年7月

開催方法：メール審議

[審議事項]

第168回大会における大会発表賞の選考を行い、1名の受賞を決定した。

2024年度第2回(論文賞)

日時:2024年9月

開催方法:メール審議

[審議事項]

2024年度の論文賞の選考を行い、2名の受賞を決定した。

2024年度第3回(大会発表賞)

日時:2024年12月

開催方法:メール審議

[審議事項]

第169回大会における大会発表賞の選考を行い、2名の受賞を決定した。

なお第168回、第169回大会における大会発表賞審査において、下記の方々に貴重なご協力を賜ったことに感謝申し上げる(配列は姓名の五十音順)。

浅尾仁彦, 浅原正幸, 伊藤さとみ, 上山あゆみ, 大滝宏一, 小野智香子, 小野 創, 風間伸次郎, 北田伸一, 衣畑智秀, 木部暢子, 桐生和幸, 久保蘭愛, 小泉政利, 今野弘章, 佐々木冠, 杉崎鉦司, 田窪行則, 千田俊太郎, 時崎久夫, 中谷健太郎, 那須川訓也, 野田尚史, 林 範彦, 藤代 節, 堀江 薫, 松浦年男, 松本 曜, 三宅知宏

——夏期講座委員会——

1. 夏期講座の開催状況について

近年の夏期講座では参加者数が減少していることを踏まえ、次回2026年は金沢大学ではハイブリッドで開催し、より多様な参加者を獲得する方策を検討することが確

認された。

- 次回夏期講座2026の準備状況について
 - 講座参加費について、早割とともに団体割(構成自由)制度の導入が決定したことが報告された。
 - 従来の一般コース(ハイブリッド)に加え、高校生も含めた初学者向けのより入門的なオムニバスコース(オンラインのみ)の増設が決定したことが報告された。
 - 参加者数を獲得するために、前回神戸大学で開催した際のアンケートにおいて需要の高い科目を開講することが報告された。
 - 予算シミュレーション通りに運営するため、次回は広報活動にいっそう注力し、高校やマスコミ等にも発信することが報告された。
- 次々回の開催校について
 - 2028年に静岡大学でお引き受けいただいたことが報告された。

——倫理委員会——

- 「言語権セミナー」第1回が開催された。2024年12月21日(土曜日)10時から12時
場所:オンライン(手話通訳あり)
講師:高嶋由布子氏(国際障害者リハビリテーションセンター)
杉本篤史氏(東京国際大学国際関係学部教授)
テーマ:手話からみた言語権
- 「言語権セミナー」第2回が計画されている(メールマガジンで会員に連絡済み)。
日時:2025年7月5日(土)10時~12時
場所:オンライン
講師:北原モコトウナシ氏(北海道大学アイヌ・先住民研究センター)
荒田ニヌム氏(民族共生象徴空間)
山丸ケニ氏(民族共生象徴空間)
テーマ:アイヌ語継承の取り組みと言語権

【別表 1】2024 年度日本言語学会決算

自 2024 年 4 月 至 2025 年 3 月

(単位：円)

取 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	11,505,000	刊 行 費	1,632,298
雑 誌 売 上	721,400	発 送 費	230,598
科学 研究 費 補 助 金	4,000,000	事 務 委 託 費	4,500,155
科学 研究 費 補 助 金 利 息	800	大 会 関 係 費	2,500,070
預 金 金 利	8,248	評 議 員 会 費	144,023
大 会 関 係 取 入	1,985,250	常 任 委 員 会 費	72,000
寄 付 金	0	編 集 委 員 会 費	107,856
雑 益	2,412	大 会 運 営 委 員 会 費	214,656
基 金 か ら 繰 入	1,500,000	広 報 委 員 会 費	176,250
夏 期 講 座 関 係 取 入	4,360,000	夏 期 講 座 委 員 会 費	0
		学 会 賞 選 考 委 員 会 費	0
		倫 理 委 員 会 費	130,000
		国 際 情 報 発 信 力 強 化 小 委 員 会 費	3,656,770
		事 務 局 費	951,228
		学 会 賞 費	130,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 費	0
		夏 期 講 座 関 係 経 費	6,106,997
		言 語 系 学 会 連 合 費	50,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		CIPL 言 語 学 文 献 一 覧 編 集 補 助 費	103,620
		G E A H S S 分 担 金	10,000
		通 信 費	495,420
		消 耗 品 費	111,285
		雑 費	545,138
		選 挙 関 係 費	0
		税 理 士 顧 問 料	352,000
		法 人 税	70,000
		予 備 費	0
		(基 金 へ の 繰 入)	
		選 挙 関 係 積 立 金	200,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 積 立 金	500,000
		夏 期 講 座 積 立 金	500,000
		情 報 保 障 関 係 積 立 金	500,000
取 入 合 計	24,083,110	支 出 合 計	24,110,364
前 期 繰 越 金	13,386,033	次 期 繰 越 金	13,358,779
合 計	37,469,143	合 計	37,469,143

◇収入内訳（単位：円）

会費		
	国内通常会員	9,720,000
	国内維持会員	0
	国内学生会員	1,020,000
	国内シニア会員	160,000
	国内団体会員	406,000
	国内賛助会員	30,000
	在外通常会員	133,000
	在外学生会員	36,000
	合 計	11,505,000
雑誌売上		
	書店販売	721,400
	松香堂書店（取り次ぎ業務委託）	532,400
	丸善雄松堂	100,800
	紀伊國屋書店	88,200
	事務局販売	0
	合 計	721,400
科学研究費補助金		4,000,000
科学研究費補助金利息		800
預金金利		8,248
大会関係収入		
	大会参加費	1,801,000
	第168回大会	1,074,000
	第169回大会	727,000
	大会出店料	160,000
	託児関係収入	24,250
	合 計	1,985,250
寄付金		0
雑益	2023年度多様性プロジェクト返金	2,412
基金から繰入		
	情報保障	500,000
	夏期講座	1,000,000
	合 計	1,500,000
夏期講座関係収入		
	夏期講座参加費	4,081,000
	その他	279,000
	合 計	4,360,000

◇支出内訳（単位：円）

刊行費

内 訳	166号 (158 p.)	167号 (168 p.)	計 (326 p.)
印刷費	774,800	823,838	1,598,638
抜刷代	15,180	18,480	33,660
合 計	789,980	842,318	1,632,298

※組版・校正料は印刷費に含む

発送費

『言語研究』一斉発送費	166号	99,807
	167号	130,791
合 計		230,598

事務委託費

4,500,155

2024年4月分～2025年3月分

日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

374,000円×12ヶ月＋郵便振替受払書類出力12,155円

大会関係費

内 訳	第168回	第169回	計
予稿集作成費	210,925	0	210,925
その他印刷費 / 備品	29,700	29,700	59,400
その他発送費	5,830	8,870	14,700
大会費	680,904	968,643	1,649,547
講師謝金等	80,000	70,000	150,000
託児関係費	130,768	63,910	194,678
大会実行委員長経費補助	30,000	30,000	60,000
応募フォーム管理費	11,000	11,000	22,000
情報保障費	138,820	0	138,820
合 計	1,317,947	1,182,123	2,500,070

評議員会費	
食事 (2回)・資料印刷 (1回)	144,023
常任委員会費	
日当 (2回)	72,000
編集委員会費	
日当 (1回)	24,000
投稿規程・特集号募集記事英文校閲費	2,016
J-STAGE 投稿査読システム費	66,000
Dropbox 利用料	15,840
合 計	107,856
大会運営委員会費	
会場視察旅費・日当 (3回)	164,656
プログラム作成謝金	50,000
合 計	214,656
広報委員会費	
ホームページ保守管理委託費	41,250
Webmaster 経費補助	135,000
合 計	176,250
夏期講座委員会費	0
学会賞選考委員会費	0
倫理委員会費	
言語権セミナーオンライン会議手話通訳	80,000
言語権セミナー講師謝金	50,000
合 計	130,000
国際発信力強化小委員会費	
日当 (2回)	18,000
ワークショップ旅費・謝金	571,710
ワークショップ日当	6,000
ワークショップアルバイト	11,700
論文英訳・翻訳・編集謝金	1,594,960
Gengo Kenkyu Anthology Vol.5 (PDF作成, J-STAGE 登載作業)	638,000
『言語研究』中国語ローマ字化	26,400
学会ホームページ英語版整備	40,000
海外有力研究者招聘効果拡充のための講演加工 (起こし和訳字幕)	750,000
合 計	3,656,770

事務局費

旅費・日当 (2回)	345,728
事務局長・事務局委員活動費	600,000
弁護士相談料	5,500

合 計	951,228
-----	---------

学会賞費

論文賞副賞 (2件)	100,000
発表賞副賞 (3件)	30,000

合 計	130,000
-----	---------

多様性プロジェクト (公募型) 費

0

夏期講座経費

アルバイト代	379,500
参加登録受付事務	165,000
印刷費	28,050
会場費	411,421
懇親会費	864,150
雑費	280,888
システム利用料	275,000
謝金・旅費	3,080,980
送料	10,500
手数料	135,508
日当	476,000

合 計	6,106,997
-----	-----------

言語系学会連合費

50,000

CIPL 負担金 (Comité International Permanent des Linguistes)

120,000

CIPL 言語学文献一覧編集補助費

103,620

GEAHSS 分担金 (人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会)

10,000

通信費

切手購入、通常発送費	31,347
みずほ銀行ビジネス Web 使用料	36,300
会費請求・督促送料	135,990
オンラインクレジット決済手数料	121,819
自動引落手数料	43,191
送金手数料	79,458
残高証明発行手数料	2,200
『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー送料	44,215
金融機関提出のための書類発行料	900

合 計	495,420
-----	---------

消耗品費

振替用紙印刷費	41,827
封筒印刷費	47,520
事務処理票	13,750
事務用品	8,188

合 計	111,285
-----	---------

雑費

2023 年度科研費残額返還	545,138
----------------	---------

選挙関係費

0

税理士顧問料

顧問料	198,000
年末調整・法定調書作成	44,000
決算料	110,000

合 計	352,000
-----	---------

法人税

法人市民税	50,000
法人府民税	20,000

合 計	70,000
-----	--------

予備費

0

基金への繰入

選挙関係	200,000
多様性プロジェクト（公募型）	500,000
夏期講座	500,000
情報保障関係	500,000

合 計	1,700,000
-----	-----------

◇ 2024 年度決算 予算・実績対照表

収入 (単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
会費	11,110,000	11,505,000	395,000
雑誌売上	600,000	721,400	121,400
科学研究費補助金	4,000,000	4,000,000	0
科学研究費補助金利息	0	800	800
預金金利	250	8,248	7,998
大会関係収入	1,600,000	1,985,250	385,250
寄付金	0	0	0
雑益	0	2,412	2,412
基金から繰入	1,500,000	1,500,000	0
夏期講座関係収入	7,150,000	4,360,000	△ 2,790,000
収入合計	25,960,250	24,083,110	△ 1,877,140
前期繰越金	13,386,033	13,386,033	0
合計	39,346,283	37,469,143	△ 1,877,140

支出 (単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
刊行費	4,200,000	1,632,298	2,567,702
発送費	400,000	230,598	169,402
事務委託費	4,600,000	4,500,155	99,845
大会関係費	3,500,000	2,500,070	999,930
評議員会費	200,000	144,023	55,977
常任委員会費	500,000	72,000	428,000
編集委員会費	1,500,000	107,856	1,392,144
大会運営委員会費	500,000	214,656	285,344
広報委員会費	1,000,000	176,250	823,750
夏期講座委員会費	200,000	0	200,000
学会賞選考委員会費	250,000	0	250,000
倫理委員会費	500,000	130,000	370,000
国際情報発信力強化小委員会費	3,500,000	3,656,770	△ 156,770
事務局費	900,000	951,228	△ 51,228
学会賞	200,000	130,000	70,000
多様性プロジェクト(公募型)費	0	0	0
夏期講座関係経費	6,456,160	6,106,997	349,163
言語系学会連合費	50,000	50,000	0
C I P L 負担金	120,000	120,000	0
C I P L 言語学文献一覧編集補助費	200,000	103,620	96,380
G E A H S S 負担金	10,000	10,000	0
通信費	900,000	495,420	404,580
消耗品費	350,000	111,285	238,715
雑費	0	545,138	△ 545,138
選挙関係費	0	0	0
税理士顧問料	341,000	352,000	△ 11,000
法人税	70,000	70,000	0
予備費	7,199,123	0	7,199,123
(基金への繰入)		0	
選挙関係積立金	200,000	200,000	0
多様性プロジェクト(公募型)積立金	500,000	500,000	0
夏期講座積立金	500,000	500,000	0
情報保障関係積立金	500,000	500,000	0
支出合計	39,346,283	24,110,364	15,235,919
次期繰越金	0	13,358,779	△ 13,358,779
合計	39,346,283	37,469,143	1,877,140

◇資産勘定

2025年3月31日（単位：円）

借方	金額	貸方	金額
事務支局		前受会費	
現金	29,353	国内通常	80,000
みずほ銀行口座	13,080,039	国内学生	12,000
郵便振替口座	576,041	前受金	107,100
科研費口座	794,494	未払金**	1,446,792
未収金*	532,400	源泉税預り金	7,656
		次期繰越	13,358,779
計	15,012,327	計	15,012,327

* 未収金は当該年度内の収入の回収が間に合わなかった場合の科目。

2024年度決算の未収金の内訳は以下の通り。

内訳	金額
雑誌売上（松香堂書店分）	532,400
合計	532,400

** 未払金は当該年度内の支出が間に合わなかった場合の科目。

2024年度決算の未払金の内訳は以下の通り。

内訳	金額
事務委託費3月	374,000
ホームページ保守管理委託費	41,250
大会発表応募フォーム費用	22,000
郵便振替受払書類出力作業費	12,155
会費督促払込用紙印刷費	3,547
編集委員会 Dropbox 利用料	15,840
税理士決算料	110,000
学会ホームページ整備	40,000
講演加工（起こし和訳字幕）	750,000
大会運営委員会費（現地視察）	8,000
法人税	70,000
合計	1,446,792

◇基金 決算

自 2024年4月 至 2025年3月

基金 損益計算書 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
期首特別会計(前期繰越)	15,205,902	一般会計へ支出	1,500,000
一般会計から繰入	1,700,000		
定期預金金利	2,138		
収入合計	16,908,040	支出合計	1,500,000
		次期繰越金	15,408,040
計	16,908,040	計	16,908,040

基金 資産勘定 2025年3月31日 (単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
みずほ銀行定期預金口座	11,600,000	積立金	15,408,040
京都銀行定期預金口座	3,808,040		
計	15,408,040	計	15,408,040

○基金内訳(目的別) 2025年3月31日 (単位：円)

記念大会積立金	1,001,423
夏期講座積立金	3,301,976
危機言語プロジェクト積立金	703,218
e-ジャーナル積立金	2,501,423
言語学普及積立金	500,000
多様性プロジェクト(公募型)積立金	4,300,000
選挙積立金	700,000
情報保障関係積立金	2,400,000
計	15,408,040

○基金内訳（銀行別）		2025年3月31日（単位：円）	
銀行名	預かり番号	名目	金額
京都銀行	003	記念大会積立金	1,001,423
みずほ銀行	078	夏期講座積立金	700,000
みずほ銀行	082	〃	200,000
みずほ銀行	088	〃	500,000
みずほ銀行	100	〃	500,000
京都銀行	005	〃	1,401,976
みずほ銀行	074	危機言語プロジェクト積立金	300,000
京都銀行	001	〃	403,218
京都銀行	004	e-ジャーナル積立金	1,001,423
みずほ銀行	073	〃	1,000,000
みずほ銀行	075	〃	500,000
みずほ銀行	076	言語学普及積立金	500,000
みずほ銀行	077	多様性プロジェクト（公募型）積立金	300,000
みずほ銀行	079	〃	500,000
みずほ銀行	080	〃	500,000
みずほ銀行	083	〃	500,000
みずほ銀行	084	〃	500,000
みずほ銀行	091	〃	500,000
みずほ銀行	097	〃	500,000
みずほ銀行	099	〃	500,000
みずほ銀行	104	〃	500,000
みずほ銀行	089	選挙関係積立金	500,000
みずほ銀行	103	〃	200,000
みずほ銀行	090	情報保障関係積立金	500,000
みずほ銀行	095	〃	500,000
みずほ銀行	098	〃	500,000
みずほ銀行	101	〃	500,000
みずほ銀行	102	〃	400,000
計			15,408,040

【別表 2】 2025 年度日本言語学会予算

自 2025 年 4 月 至 2026 年 3 月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	11,215,000	刊 行 費	4,200,000
雑 誌 売 上	600,000	発 送 費	400,000
科学 研究 費 補 助 金	0	事 務 委 託 費	4,600,000
科学 研究 費 補 助 金 利 息	0	大 会 関 係 費	3,500,000
預 金 金 利	250	評 議 員 会 費	200,000
大 会 関 係 収 入	1,600,000	常 任 委 員 会 費	500,000
夏 期 講 座 関 係 収 入	0	編 集 委 員 会 費	1,500,000
寄 付 金	0	大 会 運 営 委 員 会 費	500,000
雑 益	0	広 報 委 員 会 費	1,000,000
基 金 か ら の 繰 り 入 れ	0	夏 期 講 座 委 員 会 費	200,000
夏 期 講 座 準 備 費 返 納	0	学 会 賞 選 考 委 員 会 費	250,000
		倫 理 委 員 会 費	500,000
		国 際 発 信 力 強 化 小 委 員 会 費	0
		事 務 局 費	900,000
		学 会 賞 費	200,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 費	0
		夏 期 講 座 関 係 経 費	0
		言 語 系 学 会 連 合 費	50,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		C I P L 言 語 学 文 献 一 覧 編 集 補 助	200,000
		G E A H S S 分 担 金	10,000
		通 信 費	900,000
		消 耗 品 費	350,000
		雑 費	0
		選 挙 関 係 費	0
		税 理 士 顧 問 料	352,000
		法 人 税	70,000
		予 備 費	5,572,029
		(基 金 へ の 繰 入)	
		選 挙 関 係 積 立 金	200,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 積 立 金	0
		夏 期 講 座 積 立 金	500,000
		情 報 保 障 関 係 積 立 金	0
		基 金 預 け 替 え	0
収 入 合 計	13,415,250	支 出 合 計	26,774,029
前 期 繰 越 金	13,358,779	収 支 差 額 (次 期 繰 越 金)	0
合 計	26,774,029	合 計	26,774,029

第 170 回大会

期日 2025 年 6 月 28 日 (土)・29 日 (日)

会場 明海大学浦安キャンパス (千葉県浦安市)

公開シンポジウム 6 月 29 日 (日) 13:00 ~ 16:30 (講義棟 2 階 2206 教室)

「言語 (学) にとっての「社会」」

- | | | |
|-------|-------------------------|-------|
| (S-1) | 同居家族 3 世代間に見る言語変化 | 上野 善道 |
| (S-2) | 公的場面と親密場面における言語使用について | 田窪 行則 |
| (S-3) | 社会的な「壁」としての言語 | 林 徹 |
| (S-4) | テキストデータにみる公共圏／親密圏の生成の様相 | 吉田 純 |

口頭発表

—第 1 日 (6 月 28 日 (土)) 13:00 ~ 16:00—

◦ A 会場 (講義棟 1 階 2101 教室)

- | | | |
|-------|---|-------|
| (A-1) | 13:00 ~ 「P と (は) {思わない / 思っていない}」に後続・後起する「S もそう {思う / 思っている}」について | 森 貞 |
| (A-2) | 13:35 ~ 「じゃあ」との共起から見た日本語の勧誘文—談話構造に着目して— | 邢 立中 |
| (A-3) | 14:10 ~ 日本語願望構文の構造について | 山口 洋輝 |

◦ B 会場 (講義棟 2 階 2201 教室)

- | | | |
|-------|--|--------------------------------------|
| (B-1) | 13:00 ~ 「が」・「の」主語嗜好性の調査法に係る検証：VAS 法及び穴埋め式テストを用いた検証 | 宮崎 順大
牧 秀樹 |
| (B-2) | 13:35 ~ 格助詞ガの脱落に関わる情報構造・韻律的条件について | 大島 ^テ イヴ ^{ィット} 義和 |
| (B-3) | 14:10 ~ 日本語母語話者と中国語を母語とする日本語学習者による「ガ・ノ」交替文におけるノ格名詞句の解釈について | 席 俊森
江村 玲
小泉 政利 |
| (B-4) | 14:55 ~ 上代語の従属節におけるガ格は活格か | 小林 奏 |
| (B-5) | 15:30 ~ 日本語における非主格・非対格の動詞共起要素の項性について：容認度判断による研究 | 原 基通
藤井友比呂 |

◦ C 会場 (講義棟 2 階 2204 教室)

- | | | |
|-------|---|-----------------------------------|
| (C-1) | 13:00 ~ 日琉諸方言における二項形容詞文の第二項の対格標示 | 笠原 隆成 |
| (C-2) | 13:35 ~ 宮崎県椎葉村尾前方言における複雑述語の段階性 | 廣澤 尚之 |
| (C-3) | 14:10 ~ 南琉球宮古語伊良部島方言における再帰代名詞を用いた「物語の 1 人称」用法 | 下地 理則 |
| (C-4) | 14:55 ~ The Inner Aspect Analysis of the Directional Prefix (DIR) in Qugu Qiang | Xiaoshi Q <u>ü</u>
Yunwen CHEN |
| (C-5) | 15:30 ~ ブヌン語巒社方言の語彙的接頭辞 <i>mu-</i> の意味論—移動・脱落・逆使役— | 野島 本泰 |

◦ D 会場 (講義棟 2 階 2205 教室)

- | | | |
|-------|--|-------|
| (D-1) | 13:00 ~ タートル語の確定未来形：非規範的表記から見る語幹末母音の狭母音化 | 菱山 湧人 |
|-------|--|-------|

- (D-2) 13:35 ~ ジョンはいかにして存在しないものを購入するか：
ロシア語の人称代名詞の不定解釈について 森 一
木下蒼一郎
- (D-3) 14:10 ~ チェコ語における他動性の度合いを決定する要因について 松山 芳瑛
- (D-4) 14:55 ~ 道具機能を兼務する能格の通言語的分布と類型論 箱崎 光毅
- (D-5) 15:30 ~ 長さと拘束性に関する通言語的普遍性：場所表現に注目して 水野 庄吾
- E 会場（講義棟 3 階 2301 教室）
- (E-1) 13:00 ~ 日本語の右方転移文とコピュラ文の並行性 松田 竜宙
- (E-2) 13:35 ~ 多重後置文：後置要素を隣接させるための移動と削除
に基づく分析 木村 宣美
- (E-3) 14:10 ~ 日本語の動詞句分裂文の派生と動詞句前置との共通点
について：項と付加詞の分布からの証拠 藤巻 一真
- (E-4) 14:55 ~ 日本手話における引用 RS の構造領域：文末指さしに
注目して 内堀 朝子
上田由紀子
- (E-5) 15:30 ~ *Can't seem to* 構文に対する極小主義的アプローチ 原 大介
菅野 悟
廣川 貴朗
- F 会場（講義棟 3 階 2302 教室）
- (F-1) 13:00 ~ インドネシア語における随意的な適用態接尾辞 *-kan* 佐近 優太
- (F-2) 13:35 ~ 古ジャワ語の有標 S-V 語順における対比的主題提示 竹内 晶
- (F-3) 14:10 ~ ベトナム語における類別詞に関する考察 王 丹
- G 会場（講義棟 3 階 2307 教室）
- (G-1) 13:00 ~ 閉鎖音における「長短」と「硬軟」という対立パター
ンは如何に異なるか—日本語と朝鮮語をケースとする
ランダムフォレスト分析— 呉 少晗
- (G-2) 13:35 ~ Loanword Adaptation of Japanese Pitch Accent in Budai
Rukai Hui-shan LIN
- (G-3) 14:10 ~ Intonational Avoidance in Chokri: How a Five-Tone
Language Preserves Lexical Tone Amalesh GOPE
Tulika GOGOI
Sekholu TERSEO
- (G-4) 14:55 ~ 重子音の頻度が音象徴的效果に与える影響：「かわい
い」効果の減退 熊谷 学而
- (G-5) 15:30 ~ 音韻ループ下の文理解に関する fMRI 研究 江村 玲
鄭 嫻婷
河地 庸介
小室 竜也
小泉 政利
- H 会場（講義棟 2 階 2201 教室）
- (H-1) 13:00 ~ リトアニア語の移動動詞と共起する不定詞の格支配の
通時的变化 宮永唯衣花
- (H-2) 13:35 ~ アフリカンス語における比較級・最上級の形成—英
語との比較を通じて— 伊藤 一輝
山藤 顕
- (H-3) 14:10 ~ バローチー語の擬似等位接続構造の特色 藤本 千鶴
- (H-4) 14:55 ~ 統語的複合動詞の分類再考：2 種類か？ 3 種類か？ 山口 真史
伊藤 克将

(H-5) 15:30 ~ 語彙的複合動詞と連濁の有無：分散形態論からのアプローチ

田中 秀治

ポスター発表

—第1日(6月28日(土))16:15~17:30—

◦P会場(講義棟2階)

(P-1) 『枕草子』における非標準的係り結び

牧 秀樹

池田真由子

井上 結愛

鈴木 岳人

水口 毅

岡本 進

(P-2) 組み合わせ範疇文法を用いた英文の平均長の解析

(P-3) フィジー語の二種の他動化した名詞抱合

(P-4) 普遍的な音象徴パターンとしての「韻律の長さ」と「対象物の強さ」の相関関係

杜 乃岩

平田 歩

(P-5) 日本語諸方言におけるアクセント核の無声化生起率への影響

邊 姫京

(P-6) 『Phonological Complexity of Otsu-ru*i* (-*wi*) in Old Japanese: From a Corpus-Based Approach

Chihkai LIN

(P-7) Free Exceptive Sluicing in Japanese

Yosuke SATO

(P-8) 準体句の派生と主名詞につく助詞「の」の分類について

黒崎まひろ

(P-9) 中国語における呼称の位置：ミステリードラマの用例から

内田まりな

(P-10) フィンランド語の話し言葉における「受動形」を使用した用法の再分析

小林 真緒

(P-11) 日本語におけるメタファーに基づく合成語の分類：「方向音痴」「看板娘」の位置付けをめぐって

角出 凱紀

(P-12) 「文の包摂」の対照研究に向けた予備調査—日本語・英語・韓国語を比べよう！キャンペーン—

泉 大輔

細谷 諒太

(P-13) 形容詞の意味分類における操作的定義の整理と検討

阪口 慧

(P-14) ビルマ語の助動詞 *-lai?* の用法

萬年 容

(P-15) 命令の意味を表すシヨウについての一考察：「代行的コミットメント」という観点から

金子 真

(P-16) 日本語の文処理における促進性干渉効果について—遊離数量詞を含む文を用いて

胡 春霞

中野 陽子

(P-17) アミ語における書き言葉文体の成立

今西 一太

(P-18) モンゴル語ウジムチン方言における方向格—形式と使い分けについて—

福田真理子

(P-19) 現代日本語の音調句生成の変異とその制約条件：東京語話者の自発音声データを用いた検証

朝日 祥之

高野 照司

太田 一郎

松田謙次郎

(P-20) 与那国方言の非自発的完了表現

梁 為棟

(P-21) ベトナム語形容詞における重複表現と意味クラスの関係

佐藤 詠子

(P-22) 大阪方言における語頭・語末の境界音調の分析

鎌野 慈人

(P-23) 口語インドネシア語における *apa* の使用：選言接続詞か、疑問標識か？

高橋 翼

ワークショップ

—第2日(6月29日(日))9:30～11:30—

◦ワークショップ1(F会場 講義棟3階2302教室)

(W-1) チュルク諸語における多回接辞と複数行為性
 企画者：日高 晋介
 司会者：菱山 湧人
 コメンテーター：菅沼健太郎

(W-1-1) タタール語・バシキール語の多回接辞の諸機能について 菱山 湧人

(W-1-2) サハ語・トゥバ語・シオル語・アルタイ語・キルギス語の多回接辞の対照 江畑 冬生
 アクマ列エフ・ジャシムク

(W-1-3) トルクメン語・ウズベク語・キルギス語における複数行為性 日高 晋介

◦ワークショップ2(G会場 講義棟3階2307教室)

(W-2) 一致を導き出す統語メカニズムを探る 企画者・司会者：宗像 孝

(W-2-1) 一致再考：デフォルト格の観点から 森竹 希望

(W-2-2) MCにおける一致関係 大宗 純

(W-2-3) Pro主語を作り出す一致関係 小町 将之

(W-2-4) MCにおける *wh* 演算子のアクセス 宗像 孝

(W-2-5) MCにおける *wh* 演算子のアクセス 林 慎将

◦ワークショップ3(H会場 講義棟2階2201教室)

(W-3) 言語に現れる離散と連続：一般性と個別性の調和を目指して
 企画者・司会者：田中 太一
 コメンテーター：西村 義樹

(W-3-1) 意味の枚挙に伴う理想化と概念分析による基礎付け 浅岡健志朗

(W-3-2) 品詞・語類の連続性とは何か 石塚 政行

(W-3-3) 意味地図は文法形式の意味を枚挙できるのか：韓国語のヴォイス形式 *-aci-* の事例 鄭 宇鎮

(W-3-4) メタファーとしての言語理論 石塚 政行

(W-3-5) 意味地図は文法形式の意味を枚挙できるのか：韓国語のヴォイス形式 *-aci-* の事例 松田 俊介

(W-3-6) 意味地図は文法形式の意味を枚挙できるのか：韓国語のヴォイス形式 *-aci-* の事例 鄭 宇鎮

(W-3-7) 意味地図は文法形式の意味を枚挙できるのか：韓国語のヴォイス形式 *-aci-* の事例 田中 太一

(W-3-8) 意味地図は文法形式の意味を枚挙できるのか：韓国語のヴォイス形式 *-aci-* の事例 田中 太一

(W-3-9) 意味地図は文法形式の意味を枚挙できるのか：韓国語のヴォイス形式 *-aci-* の事例 浅岡健志朗

◇退 会

国内通常会員：88 名
在外通常会員：1 名
国内学生会員：46 名
在外学生会員：4 名
国内团体会員：5 名
144 名

◇入 会

国内通常会員：15 名
在外通常会員：3 名
国内学生会員：27 名
在外学生会員：2 名
47 名

2025 年度役員

【会長】

定延利之

【顧問】

上野善道, 影山太郎, 梶 茂樹, 窪蘭晴夫,
柴谷方良, 田窪行則, 早田輝洋, 福井直樹

【常任委員 (GEAHSS 担当†, 言語系学会連合担当‡)】

青木博史, 上山あゆみ, 菊澤律子, 小林
正人‡, 滝浦真人, 千田俊太郎, 中山俊秀,
広瀬友紀, 堀江 薫†, 松浦年男, 宮本陽一

【事務局】

南本 徹 (事務局長), 鄭 雅云, 脇坂美和子

【評議員】

青木博史, 青柳 宏, 赤楚治之, 天野みどり,
庵 功雄, 五十嵐陽介, 伊藤さとみ, 井上 優,
上田 功, 上山あゆみ, 内堀朝子, 江口 正,
江畑冬生, 大島 David 義和, 大津由紀雄,
奥 聡, 尾谷昌則, 越智正男, 小野 創,
風間伸次郎, 梶 茂樹, 加藤重広, 岸本秀樹,
北原久嗣, 北原真冬, 木部暢子, 桐生和幸,
金水 敏, 窪蘭晴夫, 窪田悠介, 呉人 恵,
小泉政利, 小西いずみ, 小林正人, 斎藤 衛,
佐々木冠, 澤田 治, 白井聡子, 沈 力,
杉崎鉦司, 滝浦真人, 田窪行則, 竹沢幸一,
田中伸一, 田中真一, 千田俊太郎, 塚本秀樹,
時崎久夫, 中谷健太郎, 長屋尚典, 那須川
訓也, 成田広樹, 西村義樹, 野田尚史, 林 徹,
林 範彦, 原田なをみ, 広瀬友紀, 福井直樹,
藤代 節, 堀 博文, 堀江 薫, 松浦年男,
松本 曜, 三宅知宏, 宮本陽一, 由本陽子,
吉田和彦, 米田信子, 鷺尾龍一

【編集委員会】

加藤重広 (委員長), 安藤智子, 江畑冬生,
衣畑智秀, 倉部慶太, 菅沼健太郎, 高木千恵,
高橋洋成, 田中牧郎, 田村幸誠, 中野陽子,
西山國雄, 藤井友比呂

【特別編集委員】

Lisa Cheng, Wesley Jacobsen, 金 周源, Terje
Lohndal, Andrej Malchukov, Armin Mester,
富岡 諭

【大会運営委員会】

小町将之 (委員長), 浅尾仁彦, 小野智香子,
甲斐ますみ, 北田伸一, 久保蘭愛, 田川拓海,
中野陽子, 平山真奈美, 矢野雅貴, 吉田健二,
李 林静

【広報委員会】

杉崎鉦司 (委員長), 蝦名大助, 大滝宏一,
児倉徳和, 志波彩子, 高橋久子, 月田尚美

【夏期講座委員会】

木山幸子 (委員長), 入江浩司, 内堀朝子,
古賀裕章, 林 範彦, 堀 博文

【学会賞選考委員会】

滝浦真人 (委員長), 青木博史, 上山あゆみ,
加藤重広, 衣畑智秀, 久保蘭愛, 小林正人,
小町将之, 千田俊太郎, 田中真一, 長屋尚典,
広瀬友紀, 堀江 薫, 米田信子

【倫理委員会】

小野 創 (委員長), 江口清子, 窪田悠介,
下地賀代子, 高橋真彦, 高谷由貴, 田口茂樹,
又吉里美

【会計監査委員】

有田節子, 石井 透